

巻頭言

畜産の祭典

花尾省治

今年の稲作は全国的に3年続きの豊作といわれているが、本県は豊作の期待もはずれ、平年作に止まればよいといわれている。これは県南部が低温多雨に見舞われ特に9月の冷込みという天災にわざわざいされ、豊作型が平年作に一転したためといえる。しかし村々では穰りの秋を前にして、秋祭りの太鼓のひびきが鎮守の森にこだましているし又各地で多彩な秋の催しがくり広げられておる。この催の中に畜産の祭典が県下各地で行われた。この最後のしめくりである第13回県畜産共進会が10月10日から4日間高梁市で開催された。農家の方々が過去1ヶ年間心血を注いで作りあげられた和牛と乳牛が一堂に集められて、その優劣を競ったのである。愛畜に対する情熱が天に通じたのか期間中連日の好天気にも恵まれた上に会場は県下第一を誇る高梁市場で設備万端非の打ちどころなく行き届いており実に気持のよい共進会であったのである。出品牛は県下各地より逸品揃いであって農家の方達の御苦勞に対して心から敬意と感謝の誠を捧げる次第である。

申す迄もなく農業事情の実態は米麦の収入が農業収入の大きな部分を占めているといえ、その割合はここ数年間次第に低下が認められている。これは主に麦作収入の減少によるものであるが、それに引きかえ畜産の収入は年を追って増加の傾向をたどっており、これからの農業経営は米麦だけに頼るわけにはゆかぬ状態で所謂畜産を取入れた有畜農業への転換であるといっている。

和牛、乳牛とも畜産の中でもそのウエイトも大きく今後本県農業経営にしっかり結びつき安定したもの

とせねばならない。こういった意味合から畜産共進会のもつ意義は極めて大きく、この共進会を契機として一段と研鑽され将来その飛躍の源泉とされるよう農家の方々にお願いする次第である。